

和光バスケットボール部の歴史

体育館では毎日ドリブルのボールが弾む音とストップ・ターンが発する靴音が聞こえる。開校以来途切れることなく続く男女バスケットボール部の激しい練習が発する音である。

開校と同時に小原英資先生が創部したバスケットボール部であるが、その歴史を緋(ひもと)くと、渡辺耕造先生が着任された昭和49年に遡(さかのぼ)ることができる。3学年が揃ったところで迎えた名コーチは、小原先生と共に最新の理論に基きチーム作りを進め、西部地区はもとより男女とも県内有数のチームに育て上げた。特に昭和53年学徒総合大会では女子が3位に入賞した。当時の埼玉は川口女子、熊谷女子、浦和西、川越商業など古豪名門がひしめき合い全国トップレベルの実力を持つ時代であった。そんな中、開校7年目の新興チームが次々とトーナメントを勝ち進み素晴らしい結果を出してくれた。また同時期には、指導者も輩出している。6期生の増田義治(現草加高校勤務)は教員を志し、後の和光男子バスケットボール部の躍進を支えることになる。

渡辺・小原先生が転出された後、しばらくの空白期を経たが、昭和58年に武井正人先生が着任する。山梨の名門日川高校在学時からディフェンス力には定評があり、高いフィットネスと素早いトランジションを柱に、最新の練習法を取り入れ、強豪チームに臆することなく挑戦していく厳しい指導の甲斐が実り、愛称 Blue Winds(ブルーウィンズ)の名前どおり男子チームは颯爽と勝ち進み平成3年冬、関東新人大会出場を果たした。当時クラス数も減り部活動全体がかつての勢いを失った頃だけに学校全体を活気づける価値のある勝利であった。前述増田先生との絶妙なコンビは、熱さと冷静さが噛み合い県大会上位の常連となり、同時に平成3年度中国山西省遠征埼玉県選抜メンバーに、今井剛(和光三中出身)・室岡秀久(大和中出身)の二名が選ばれた。ちなみに武井先生はその後に赴任した大井高校でも強豪チームを作り、念願の埼玉県制覇も成し遂げ、ウィンターカップにも2度出場させている。

学校の近くで、農業を営んでおられるOBの井口賢一さん(11期生)に当時の話をうかがった。「武井先生の指導はとにかく物凄かったです。怒ると本当に鬼のようでした。ただ練習が終わるとみんなで餃子を食べてに行ったり(死ぬほど食べさせられましたが)オンオフの切り替えがはっきりしており、そのような楽しみもあったので何とか辞めずに続けることができました。僕たちの頃は決して強いチームではありませんでしたが、県内外の強豪チームとの練習試合を積み重ね、少し後の活躍の土台を築けたのではないかと思います。社会に出てからも当時鍛えられた強い精神力は様々な局面で本当に役に立っており感謝の気持ちでいっぱいです」

現在も、金子公一先生・加藤志織先生・山田みね子先生らの指導で少ない部員数ではあるが頑張っている。昔から変わらない「あきらめず最後まで走りきるチーム」なのは伝統かもしれない。